

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172900078		
法人名	社会福祉法人 旭川福祉事業会		
事業所名	グループホーム ゆとり(ななかまど)		
所在地	旭川市永山4条3丁目1-20		
自己評価作成日	令和 3年 1月	評価結果市町村受理日	令和3年3月3日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_U22_kani=true&JieyosyoCd=0172900078-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	合同会社 mocal
所在地	札幌市中央区北5条西23丁目1-10-501
訪問調査日	令和 3年 2月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

大雪山連峰に囲まれ、冬は寒さが厳しく夏は猛暑日も多く四季がはっきりとした街で、近くには全国的に有名な旭山動物園もあり観光客が多く訪れています。
春には桜見物、秋には紅葉見物、夏は近所を散歩し途中でアイスクリーム等を食べたり四季に合わせた行事を行うなど利用者様の笑顔を大事にした支援を行っています。
特に夏場は毎日のように日光浴を行い外でかき氷をしたり西瓜を食べたり、七夕の当日には利用者様全員が浴衣姿になり花火を楽しみ童心に返り夏のひと時を楽しんでいます。
利用者様の体調は月2回の往診や看護師による健康チェックなど連携病院の協力を得ながら健康管理を行い、身体的・精神的状況に重点を置き、個別にケアを行うことで残存機能の現状維持・向上を図れるよう努めています。
地域包括支援センターや北海道認知症グループホーム協会及び行政等の研修に参加し、情報を共有し職員の質の向上に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当法人の理念『ご利用者とともに、生きる力と喜びを、地域に安心と信頼の輪を、私たちは常に可能性を追求します』を、毎朝ミーティングの時に職員全体で唱和し、実践に繋げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	運営推進会議に参加をいただいている町内会の委員の方から意見を伺ったり、廃品回収の協力を行っている。今はコロナウイルス感染症予防の為参加できていないが、毎月、地域密着型カフェ(きづなカフェ)に数名ずつ参加もしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に町内会の委員の方にも参加していただき、当グループホームの状況説明の中で、認知症の症状やその対応についてお話をさせていただいている。また、最近の高齢者福祉の状況についてもお話をさせていただいている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出た内容について、周知・検討が必要な事があれば、ミーティングや業務推進会議で職員に報告し、サービスの向上に繋げている。また、ご利用者から意見を伺い、行事等の計画を行っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事故発生時の報告や、運営上不明な点があれば、電話にて確認や報告を行ったり、文書にて報告を行い、協力関係を築くよう取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、現状でそのようなケースは発症していない。リスクマネジメント委員会を中心に身体拘束防止について会議等で周知・啓蒙を図っている。外部研修にも参加した際は伝達研修も行っている。夜間帯は防犯の観点から施錠しているが、両ユニットの玄関とも日中帯は出入りが自由に出来る様開錠している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	リスクマネジメント委員会を中心に虐待について会議等で周知・啓蒙を図っている。また、外部研修に参加した際は伝達研修も行い、重要性や知識向上に努めている。日々の業務の中で入居者に対する声掛けや対応等、職員同士チェックを図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	任意ではあるが、職員への外部研修参加を助成し、重要性や知識向上に努めている。研修に参加した際は、伝達研修も行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、ご利用者・ご家族に対し、契約書や重要事項説明書を基に説明を行っている。また、入居中や退居される際の不安やトラブル除去に努めている。法改正等についても変更事項を文書にて説明の上、同意書を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を玄関に設置している。また、苦情相談受付窓口(苦情解決責任者含む)を掲示している。要望等がご利用者やご家族からあれば、業務推進会議や、担当者会議等で反映を図っている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全員が不規則な勤務ということもあり、連絡ノートを活用しながら職員間(管理者と介護員、介護員同士)の連携を図っている。また、日々の業務の中で職員とコミュニケーションを図れるよう努めたり、業務推進会議等で意見等を聞く機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績、勤務状況に応じて、雇用形態(パートから准職員、准職員から正規職員への登用)を考慮している。介護福祉士や介護支援専門員等一部の資格取得の助成制度を取り入れたり、一部外部研修への助成も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	任意であるが、外部研修への参加に取り組み、一部研修費の助成も行っている。働きながらも資格取得(介護福祉士・介護支援専門員)や、介護職員初任者研修等の講習参加ができるように考慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	地域包括支援センター主催の会合や研修に参加したり、今はコロナウイルス感染症予防の為参加できていないが、地域密着型カフェ(きづなカフェ)にてご利用者だけでなく職員も交流し、サービスの質の向上に努めている。		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前の面接で、ご利用者より不安に思っている事や要望等の話を十分に聞き、安心感を持っていただけるよう関係づくりに努めている。		
----	--	---	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の事前の面接で、ご家族より不安に思っている事や要望等の話を十分に聞き、安心感が持てるよう関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の事前の面接では、ご利用者とご家族から十分に話を伺い、必要なニーズを支援していけるよう努めている。希望があれば施設見学等も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	時間を作りゆっくりコミュニケーションを図りたいと思っているが、全員とは難しいのが現状である。ご利用者の自己決定を可能な限り尊重し、出来ることはご自分で行っていただき、出来ない部分を見守り・手伝う気持ちで接している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時は挨拶を忘れずに行い、日々の様子等を伝え、情報を共有できるよう心がけている。面会時だけでなく、何かあれば電話にて情報共有も行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出、外泊、面会等が気兼ねなく出来るよう努めている。また、敬老会や新年会の行事では、家族会共催行事としてご家族を招いて会食や談笑できる場の提供に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者間の口論や勘違い等があった際、一方的にならず話を聞き仲介し、早期解決に努めている。ご利用者一人一人の関係を把握し、支え合う関係づくりに努め、孤立しないように心がけている。職員同士で情報交換・共有している。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居し契約が終わった後でも、ご家族より気軽に相談できる場になれるよう努めている。入院に伴い退居され、GHへ復帰ができない場合であってもお見舞いに伺い、ご家族への相談等にも努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者個々の希望に対し、全てのサービスを提供することは難しいが、可能な限り意向に近づけられるよう、アセスメントやカンファレンス、業務推進会議等で検討を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の事前の面接時に情報を把握できるよう努めている。また、詳細等のご利用者やご家族とコミュニケーションを図りながら把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別の介護記録票にて記載され、日誌や連絡ノートも活用しながら情報共有に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	状態に変化があった場合はその都度対応を検討している。業務推進会議やカンファレンス等でも検討し、ケアプランや業務試行に反映を図っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録や職員の連絡ノートを活用しながら、ケア内容やケアプランの見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々々の状況や要望を把握できるよう努め、可能な範囲内で柔軟な対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの関係で今は実施されていないが、地域密着型カフェ(きづなカフェ)の集いが月に1回あり、参加者は少数で交代と限られるが、地域住民との交流と地域に事業所の存在アピールを行うことで、将来的により開かれた事業所づくりに努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携機関医師の往診、同看護職員による健康チェック、歯科往診の利用の支援に努めている。また、ご利用者及びご家族の希望や要望に沿ったかかりつけ医の受診も行っている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者の体調異変時には、その都度医療連携機関に報告、指示受けを行い適切な対処を行っている。(当グループホームでは看護職員の配置はない)		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療連携機関やかかりつけ医と連絡を密に行い、状態把握(定期的週1回は入院先へ状態確認を兼ねてお見舞いに伺っている)に努めている。また、情報を個人記録に記載し、職員間で情報の共有を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	重度化に対する指針を作成し、入居前に説明している。重度化した際は、ご家族と医療機関(主として医療連携機関)との話し合いの中で当グループホームの管理者が立会い、ご利用者にとって良い支援に結び付けられるよう努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故や緊急時の対応マニュアルを作成している。事故や急変等があれば、医療連携機関に連絡し、応急手当や初期対応の指示を受けて対応している。不安な場合は管理者へ連絡し、来訪する形になっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災避難訓練は実施できたが、水害避難訓練はコロナウイルス感染症予防の為実施できなかった。		

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いや声の大きさ等できるだけ気を付けているが、業務に追われると不適切な声掛けをしてしまう事もある。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来るような声掛けや選択肢の提供、傾聴を行うよう心掛けているが、出来ていない事もある。認知症により自分の意思で決定できない方については結果的に職員の都合を優先している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	1日の流れが決まっているので、職員側の都合になってしまう事が多い。入浴や食事はご利用者のペースに合わせるようにしているが、ある程度日課が決めていることで、職員の都合を優先している事がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服を選ぶ際は、ご利用者の要望を聞きながら、同じ服にならないよう気を付けている。又、汚れていたらすぐ取り替える様にしている。ブラッシングや髭剃り、爪切り等気づいた際に行っているものの、見落とすこともある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューの内容をお話し、材料の下ごしらえ(もやしの根取り、イモの皮むき等)やテーブル拭き、下膳、食器拭き等ご利用者の出来る事は共に行うようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	委託業者の栄養士に献立を作成していただいている。食事量や水分量がひとりひとり異なるので個人記録に記載の上留意し、入浴後にはスポーツドリンク等の提供を行っている。状況によっては主治医と相談して助言や処方していただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けを行ない、毎食後ケアしていただいている。自力で出来ないご利用者には介助を行っている。拒否があった場合は無理強いせず時間をかけて様子を見ている。また職員間の情報交換し、ご利用者への声掛けを工夫している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	可能な限り、声掛けしトイレ誘導を行っている。パット、下着等に汚染が見られれば交換を行い、やむなくオムツ介助の方でも訴え時や定時にパット等確認し交換している。共に排泄リズムや兆候動作を把握できる様努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤は最小限での使用に留められるよう努めている。水分を摂っていただき、自然排便を促すことで、入居者の排便パターンに応じた対応をしている。軟便、下痢等続くようなら医療連携機関に相談し下剤コントロールをしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	入浴日が決まっている為毎日にはならないが、1回でも多く入浴していただけるよう心掛けている。入浴中も会話を取り入れたりしている。拒否が強い方へは時間等ずらす配慮を行っているが、入浴日が決まっているがゆえに、強引さもあると思われる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣が異なるので、居室、ホール、ご利用者個々がリラックスできる所で休んでいただける様配慮している。個々の就寝時間に合わせ支援しているが、傾眠が強い方には昼間でも短時間居室で休んでいただく様に声掛け誘導している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	トリプルチェックを行い、誤薬防止に努めている。内服薬の種類把握、確認表の作成、与薬時は名前や時間を口に出し渡している。理解できるご利用者には一緒に確認をしていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事(食器洗い、洗濯物たたみ等)を共に行う努力はしているが、できるご利用者に偏りがある。レクリエーション(毎日の体操や様々なゲーム等)を行っているが、今後は種類を増やせるよう努めたい。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	普段は外出行事や外気浴、小グループ外出、きつなカフェへの参加を行っているが、コロナウイルス感染症予防の為、今年度は気軽に外出する事ができなかった。花見や紅葉の際、車からは降りないが、1.2名ずつの外出は行えた。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部のご利用者は自己管理(少額)しているが、基本的には施設で管理(立て替え)している。ご利用者からも自己管理する事に対し、後ろ向きな意見が聞かれている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々の居室に電話を設置する事が可能だが、現在電話を設置あるいは携帯電話を所持されている方はいない。しかし、当事業所の電話を利用して(番号かけるのは介助で)ご家族と連絡を取り合う方はいらっしゃる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体的な掃除は毎日行っている。季節に合った室内装飾(ひな祭り、クリスマス等)を行い生活感ある暮らしが出来るよう努めている。ホールのソファでは新規ご利用者入居の際に相性等で揉めることもあり、今後も職員間で話し合っていきたい。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆったり寛げるよう、テレビを囲み、1人掛けソファと3人掛けソファを設置している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある筆筒や椅子、花瓶、写真等があれば持参していただき、安心して落ち着きやすい居室になるよう支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを廊下、トイレ、玄関等に設置し、移動の際は安全に自力歩行が出来る様に支援している。一部ではあるが居室にも手すりを設置し、残存機能維持に繋げている。できる方には食器拭きや居室清掃も共に行っていたい。		